

宮崎海岸侵食対策検討委員会 第7回技術分科会

資料7-3 Ⅲ. 検討事項 P13 誤記箇所

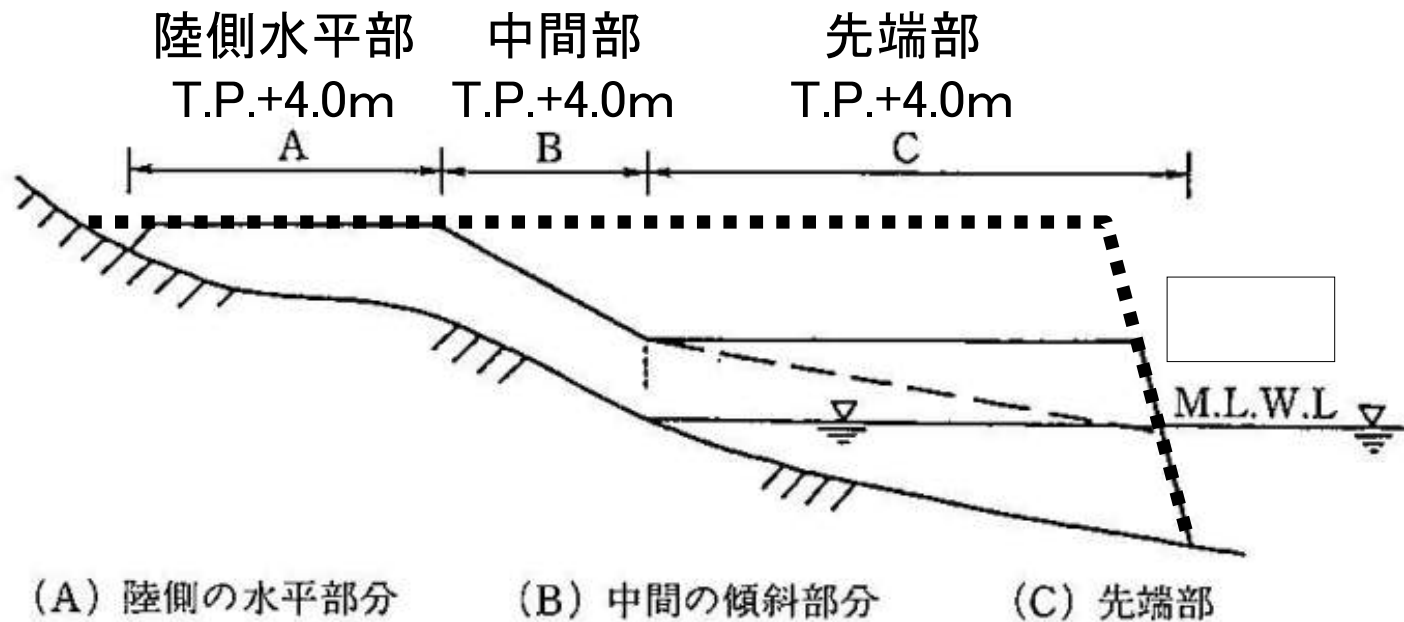
4-(2) 突堤の規模の検討 天端の高さの検討 (検討結果)

□ 検討結果(先端部)

- 先端部: 年数回波進行波高が天端を超えない高さがT.P.+3.65~~~3.9~~mとなるが、施工性を考慮し、T.P.+4.0mとする。

□ 検討結果(中間の傾斜部分)

- 中間部: 陸側水平部=先端部となることからT.P.+4.0mとする。



天端の高さは、陸側の水平部分・中間の傾斜部分・先端部ともにT.P.+4.0mを基本とする。

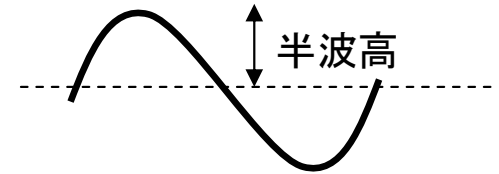
宮崎海岸侵食対策検討委員会 第7回技術分科会

資料7-4 IV. 参考資料 P18 誤記箇所

4-(3) 突堤の規模の検討

天端の高さの検討 (検討結果)

- これより天端高を算定すると、T.P.+4.2m~4.5mとなる。
先端部天端高 = H.W.L. + 1/2 × 年数回波進行波 + 沈下量
= T.P.+1.09m + 1/2 × (4.23m~4.88m) + 沈下量
= T.P. + (3.2m~+3.5m) + 1.0m
= T.P.+4.2~4.5m



- もうひとつの算定式より天端高を算出算定すると、T.P.+3.1~3.6mとなる。
先端部天端高 = H.W.L. + 1.0~1.5m + 沈下量
= T.P.+1.09m + (1.0m~1.5m) + 沈下量
= T.P. + (2.09m~+2.59m) + 1.0m
= T.P.+3.1~3.6m

- これらの平均値を取ると、T.P.+3.65m~T.P.+~~3.9~~mとなる。

$$\begin{aligned} \text{先端天端高平均値} &= 1/2 \times (\text{T.P.} + 4.2\text{m} \sim 4.5\text{m} + \text{T.P.} + 3.1 \sim 3.6\text{m}) \\ &= \text{T.P.} + 3.65\text{m} \sim +\del{3.9}\text{m} \end{aligned}$$

- 安全側を考慮するとT.P.+~~3.9~~mとなるが、これは陸側の水平部分T.P.+4.0mとほぼ同等の高さになることから、施工性を考慮し先端部もT.P.+4.0mとする。

- 以上から、先端部天端高はT.P.+4.0mとする。

- 先端部: 年数回波進行波高が天端を超えない高さからT.P.+4.0mとする。